

カナリヤ諸島に日本国憲法9条の碑があることを知っていますか？

ドキュメンタリー映画「シロタ家の20世紀」は

日本国憲法草案、女性の人権条項に関わったベアテ・シロタ・ゴードンさんの親族を描いた作品。ベアテ・シロタ・ゴードンさんは、少女時代を日本で過ごし、戦後GHQ民政局の一員として再来日、日本国憲法第24条「男女平等」の条文の生みの親となった。父のレオ・シロタは日本の楽壇に貢献した世界的なユダヤ人ピアニスト。1929年から17年間、日本で演奏や教育活動を始め、園田高弘や藤田晴子など大勢のピアニストを育てた。この映画は、第2次世界大戦中ヨーロッパに残ったシロタ家の家族がたどった運命を描く――。

国から国への移動、愛と悲しみ、そして戦死や収容所のことなど、ユダヤ人家族の悲しみの歴史を通して、戦争の悲惨さと平和の大切さを訴える。

憎しみの連鎖へとつなげないために・・・・・・・・

高校生の熱意が埋もれた加害の歴史を掘り起こした渾身のドキュメンタリー

ドキュメンタリー映画「陸軍登戸研究所」は

神奈川県川崎市生田の丘陵地にあった、秘密戦兵器の研究・開発を行った「登戸研究所」の内実を、高校生らとその関係者に聞き取った貴重な証言です。

1919年、第1次大戦終結直後、日本は直ちに毒ガス兵器の研究を開始。東京都新宿区戸山ヶ原に陸軍科学研究所を発足。諜報、防諜、謀略、宣伝的行為、および措置に対応できる資材、兵器の発案に励んだ。1937年には陸軍参謀本部第二部八課（謀略課）が生まれ、「登戸実験場」が設立された。資源なき日本に勝利をもたらすには独自の知恵と戦術が求められた。この「実験場」は、後の「陸軍第九技術研究所」となり、秘匿名は「登戸研究所」とされた。

やがて、研究分野は広がり、次々に研究棟を増やし、所員も一千名に及んだ。殺人光線、毒物や爆薬の開発、風船爆弾、偽札製造、多種多様な秘密兵器、謀略兵器が、発案・開発された。また、中国に出張しての生体実験も行ったが、敗戦に際し、徹底した証拠隠滅の命令により歴史から消えていた。

戦争には必ず裏面があり、猜疑心^{さいぎしん}の高まりにより、秘密と残虐に陥っていく



新型コロナウイルスワクチンは5類に移行し、収束に向かっていますが、大勢が密閉空間に集まるイベントのため、できるかぎりマスクの着用をお願いします。